

第 46 回宇都宮市民芸術祭 写真部門 審査総評

第 46 回宇都宮市民芸術祭写真部門におきまして、応募総数 293 点と多くの写真愛好家の皆様が出品して下さい、心よりお礼申し上げます。

5 月の第 1 次審査で入選 146 点を決定し、第 2 次審査を 6 月 11 日に実施し、多岐に渡る分野から慎重かつ厳正に審議いたしました。上位を占める作品は、独自の視点で表現したい意図やその場の臨場感・空気感などが明確に伝わってくる作品です。また、全体としてレベルの高い作品が多かったともいえます。日常の身近な光景やお祭りなどを瞬間的に切り取り、大切に撮影されていることに好感が持てます。

今回、宇都宮市民芸術祭写真展の様々な作品を鑑賞していただき、今後の作品作りに生かしてほしいと思います。次回も素晴らしい作品に出会えることを、審査員一同、期待して全体講評とさせていただきます。

市民芸術祭賞

186 「連太鼓の響」 須藤 ^{ゆきとみ} 幸富 さん

夕暮れの祭りの中に浮かぶ二つの大きな太鼓、画面構成の面白さと見るものに伝わる躍動感が素晴らしいと思います。あたかも太鼓の中に明かりがあるような光の演出が、和太鼓奏者をシルエット的に浮かばせ印象的です。祭り全体の空気感も伝わり、見る人たちに感動を与える素晴らしい作品だと思います。

準市民芸術祭賞

120 「少し静かにしてくれる？」 伊奈 実 さん

今回も多くの白鳥の作品が見られましたが、この作品はずばり眼がいい。全体の露出・作品の持つ質感・大胆な構図と、まさに作者の表現したい意図が明確にわかる作品だといえます。白鳥と作者とのやり取りが伝わってくる実に素晴らしい作品だと思います。

準市民芸術祭賞

95 「雨の神事」 堀井 ^{あきひろ} 昭宏 さん

神聖な領域に雨が降り、遠くの木々に霧が張っている中、白衣と赤の袴に身を包んだ巫女さんの集団、写真好きな人ならこれ以上の条件はないといったものを余すことなく表現しています。安定感があり、雰囲気と立体感も素晴らしい作品と思います。

審査長 渡邊 昇